

四万十市のこどもの育成目標 及び 保幼小中連携カリキュラム

みんなで育てる しまんと ちるどれん

第1版（令和7年4月1日施行）

四万十市
四万十市教育委員会

前文.....	2
第1部 四万十市のこどもの育成目標について.....	3
第2部 保幼小中連携カリキュラムについて.....	4
I チャレンジ精神のあるこども.....	4
II 健康でたくましいこども.....	7
III 自尊感情・自己肯定感が高いこども.....	10
IV コミュニケーション能力のあるこども.....	12
V ふるさとを愛するこども.....	15
目標別取り組み表.....	17

○本目標等の策定趣旨

本目標は、本市の保育所・幼稚園や小・中学校などのこどもの育成機関における、機関ごとの育成目標を尊重しつつ、これら機関における課程を終え、成人（あるいは社会的自立）年齢に達する時点を見据えた最終的な育成目標を定めたものである。

市として目指す最終的なこどもの育成像を具体化することで、各機関の連携軸をあきらかにし、より緊密な連携を図るとともに、家庭や地域においてもカリキュラムとして具体策を示し目標への理解を求めることで、官民が協働し子ども達の育成に向けて取り組める環境づくりを図るものである。

以上の趣旨に基づき、本目標を本市に所在する官民の組織及び地域住民で共有し、協働して取り組むことで、本市の子どもたちが、生涯を幸せに生きていけるよう育つことを目指すものである。

○本目標等の策定経緯

本目標では、本市の子どもたちが生涯を幸せに生きていけるよう、社会的自立を果たす年齢（18歳以降）に身に着けるべき、変化の激しい新しい時代や技術文化に適応し、新たなことを学び続け、新しい時代を生き抜いていくための資質・能力と目指すこども像について、本文第1部にある通り5つを設定した。

目指すこども像と資質・能力については、本目標及びカリキュラムが、公的機関においては主に保育所・幼稚園や小・中学校において用いられることから、これらの機関の所属長が合同で複数回に渡り会議を行い、本市の子どもたちの現在の状況を踏まえ、かつ将来の幸せな姿を思い描きながら熱心に議論を尽くしたうえで選定した。なお、これらの資質・能力はあらゆる発達段階や様々な機関で共有し得るものとする必要があったため、学力調査結果等の認知能力ではなく、非認知能力からの選定としている。

カリキュラムについては、目指すこども像・目指す姿を実現するために効果のある取り組みを、既に保育・教育の現場で実践されているものを中心に、目標別に列記した。また、保育所・幼稚園や小・中学校の取り組みだけでなく、家庭や地域（子育てやこどもの育成に関わるNPOや任意団体等の組織を含む）に協働を求めていく取り組みについても列記し、官民が一体となって本市のこどもの育成に取り組めるよう、具体策を示している。

○本目標等の運用について

本目標及びカリキュラムは、保育所・幼稚園、小・中学校といった取り組みを記載した機関はもとより、児童館・学童保育等の児童福祉施設、スポーツ少年団、こどもに関わるNPO等、市内のこどもの育成にかかわる機関すべてで共有し、より緊密な連携の基軸として用いる。

また、家庭に対しては、本目標の周知により、本市の一貫した育成目標と各機関の取り組みへの理解を求め、本市のこどもの育成への協働を呼びかける。

さらに、地域にもこの目標を共有し、地域ぐるみでの子育てにもこの目標が共有されることを目指したい。

第1部 四万十市のこどもの育成目標について

本市のこどもたちの育成目標となる、目指すこども像は以下Ⅰ～Ⅴの5つとする。

なお、それぞれのこども像を確立するために必要となる、こどもたちが目指す姿は、各こども像ごとにA～Eのとおりとする。

Ⅰ チャレンジ精神のあるこども

- ☐A 失敗してもあきらめず挑戦できる
- ☐B 勇気を持って行動できる
- ☐C 課題にコツコツ取り組める・目標に向けて努力（自分磨き）ができる
- ☐D 何事にも意欲的に取り組める

Ⅱ 健康でたくましいこども

- ☐A 健康な心と体
- ☐B 基本的な生活習慣を身につける
- ☐C あそびこめる力（集中力）・あきらめずに最後までやり遂げる力
- ☐D 何事も楽しめる力（心の余裕）
- ☐E 自分で考え判断し、自主的に行動できる力

Ⅲ 自尊感情・自己肯定感が高いこども

- ☐A 自分も他人も同じように大切にできる
- ☐B 自分の持つ良さに気付ける
- ☐C 多様性を認め合える
- ☐D 他人に共感することができる・悩みを共有することができる

Ⅳ コミュニケーション能力のあるこども

- ☐A あいさつができる
- ☐B 人の話をよく聞き、想像したり考えたりできる
- ☐C 自分の思いを自分の言葉で伝えることができる
- ☐D リーダーシップを発揮できる・仲間や他者と協働できる

Ⅴ ふるさとを愛するこども

- ☐A ふるさと（家族や地域、それぞれの単位のルーツ）についてもっと知りたい、関わりたいという心を持てる
- ☐B ふるさとに対し愛する心や親しみを持てる
- ☐C ふるさとに関わる情報発信ができる

第2部 保幼小中連携カリキュラムについて

前部の目指すこども像・こどもの姿を実現するために必要となる、それぞれの立場における取組を具体的に示す。なお、取組み末尾の[A]～[E]の記号は、各目標に定める「目指すこどもの姿」に対応しており、当該取り組みが対象となるこどもの姿の育成に関わりがあることを示している。

目標Ⅰ チャレンジ精神のあるこども

育成したい非認知能力:チャレンジ精神

- [A]失敗してもあきらめず挑戦できる
- [B]勇気を持って行動できる
- [C]課題にコツコツ取り組める・目標に向けて努力（自分磨き）ができる
- [D]何事にも意欲的に取り組める

保育所、幼稚園での取り組み

- ①園児の興味や関心を引き出し、自分でやってみたいと思える活動を設定する。そこで生まれたやりたい気持ちに共感し、「やってみたい。」という意欲を阻害しないようチャレンジしたことを認め、応援したり励ましたりしながら自立、自律できるように支え見守る。[A]、[B]、[C]、[D]
- ②失敗体験を受け止めながら、少し頑張ったら達成できる目標をつくり、小さな成功体験を仲間と一緒に見出す経験をたくさん積み重ねることができるようにする。[A]、[C]
- ③応援したり励まし合ったりできる友だち関係を築く。[A]、[C]
- ④個々の発達に応じ、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かす意欲を育てる。[D]
- ⑤失敗しても何度でも挑戦できる気持ちを育みながら、友達と同じ目標をもって自分なりに頑張ろうとする機会を作る。[A]
- ⑥上の年齢のこどもの姿を見て憧れを持てる異年齢保育を取り入れる。[B]
- ⑦人前で自信を持って表現できる力をつける。[B]
- ⑧初めて経験することも、まずは大人と→友だちと→1人でやってみようと段階を踏んで挑戦させる。[B]
- ⑨子どもの興味や関心が広がるように環境を整え、自分のこだわりを持って心と体を働かせて主体的に探求しようとする姿を見守る。[D]
- ⑩心の動きに共感し、遊びを見守りながら、頑張っている過程を褒め認めたり励ましたりする。[A]、[C]
- ⑪一人ひとりの頑張っている姿を子ども自身に具体的に伝えることで、失敗しても大丈夫という安心感を持てるようにしていく。[A]
- ⑫自分なりの課題をみつけて繰り返し挑戦したり最後までがんばろうとする姿を認め、充実感や達成感を味わえるようにしていく。[A]、[C]
- ⑬友達や保育者と一緒に工夫し、試行錯誤しながら遊びや生活の中で、頑張ったり、我慢したり、自分のことがすごいと思えたりできる経験ができる機会を存分に作る。[A]、[C]、[D]
- ⑭遊びや生活の中で気づいた事、できるようになった事なども使い、試したり工夫したり表現したりしながら目標に向けて取り組む。[C]、[D]
- ⑮子どもの意欲を大事にし、自発的なやりたいという自我が芽生えてきたことを大切な事として喜び、意欲の発達の姿としてゆったりとした気持ちで受け止め活動を保障し、気持ちの育ちやプロセスを大切に作る。[C]、[D]
- ⑯様々な遊びを通して、じっくりと取り組むことで達成感や満足感を感じることができるようにする。

B、**C**

小学校での取り組み

- ①児童が得意なことを認め、励ますことで自信をつけさせ他分野への挑戦へのきっかけづくりとする。
B
- ②自主性を生かした活動を推進する。**C**
- ③何度でも挑戦できる雰囲気の中で、児童のやりたいという思いを大切にしながら、新たな出会いのある活動を仕組む。**A**
- ④児童が目的意識をもって主体的に取り組むことができる活動を設定する。**C**
- ⑤失敗を乗り越えたり苦手なことにも挑戦する場を設定する。**A**
- ⑥結果だけでなく目標を持って取り組む過程も肯定的に評価する（達成感をもたせる）。**C**
- ⑦自然体験学習・集団宿泊学習等、日常から距離を置いて、新たな自分への気づきにつながる学習機会の設定。**B**
- ⑧具体的な目標を持たせ、見通しをもって活動させる。**C**、**D**
- ⑨目標を決めて定期的に振り返りを行い、可視化して評価する。**C**
- ⑩ミスや失敗を肯定的に捉え、どうすればよかったのかを考えさせる。**A**
- ⑪課題に対して、多様な考えで解決しようとする学習内容を設定する。（教育現場においては、探究的な学習活動を意図的・計画的に設定し、児童に自己決定や自発的・能動的な学びの機会を保障する。）
C、**D**
- ⑫キャリアシートの活用（行事ごとの目標設定）。**C**
- ⑬やったことがないことに取り組ませる場面を工夫する。**B**
- ⑭できるようになった経験を振り返らせる。**C**
- ⑮スモールステップで達成感を感じさせ、最終ゴールを達成させる。**C**
- ⑯温かい励ましとやる気になる評価をする。**A**、**B**、**D**

中学校での取り組み

- ①学校における部活動を含む全ての教育活動で、失敗したり思うような成果がでないときも、努力する姿勢は、きっと今後の人生にプラスになると伝え励まし、新たな挑戦へ繋げる。**A**、**C**
- ②生徒会活動・行事。**A**、**D**
- ③進路目標を持ちそれを達成するために短期目標を設定し、日々努力し続けてクリアしていく姿を記録に残し評価していくことで目標達成まで継続して努力できるようにする。**C**
- ④問題解決型の授業を通して、生徒が課題を自分事としてとらえ、自己決定し、未知の問題解決に挑む力を育成する。**D**
- ⑤自己決定の場を多く設定し、その考えを尊重する。**B**、**C**、**D**
- ⑥スモールステップを踏んで協力していく大切さを実感させる。（短期目標を設定し達成させ、達成感を与える）**C**
- ⑦自主性や主体性を持たせる指導。**D**
- ⑧生徒が自分で決める機会を設定。（NIE 集会）**B**、**C**、**D**
- ⑨チャレンジ・やり直しを肯定的に評価。（学びタイム、部活動）**A**
- ⑩振り返りの充実。（各種行事）**C**

家庭にお願いしていく取り組み

- ①子どもの意欲や頑張っている姿を、認め、励まし、褒めて、気持ちを共感する。**A**、**B**、**C**、**D**
- ②子どもの挑戦する気持ちに寄り添い、大らかな気持ちで見守る。**A**、**B**、**C**、**D**
- ③親が自ら挑戦する姿を子どもに見せる。**A**、**B**
- ④子どもが興味を持ったことは進んで後押しし見守る。**A**、**B**、**C**、**D**
- ⑤失敗を恐れず挑戦できるように声掛けをする。**A**、**B**、**C**
- ⑥やろうとする気持ちを支える。**B**、**C**、**D**

- ⑦子どもの頑張りを見守り、応援していく。□A、□B、□C、□D
- ⑧失敗は成功の基、失敗を恐れずにチャレンジできるよう声をかける。□A
- ⑨家庭で会話をする場面を作り、子どもの頑張りをお支えする。□A、□B、□C、□D
- ⑩チャレンジしようとする気持ちや行動をお支えする。□A、□B、□C、□D
- ⑪結果だけでなく、取り組みの過程を評価する。□A、□B
- ⑫いろいろな体験をさせ、それを振り返ることを日常会話の中で行う。□C
- ⑬自らやろうとしたことを評価する。□B、□D
- ⑭児童の興味・関心を大事にする。□D
- ⑮ミスや失敗を肯定的に捉え、どうすればよかったのかを考えさせる。□A
- ⑯お手伝いをさせる等家庭の一員であることの自覚を持たせる。□C
- ⑰失敗を恐れずに前向きにチャレンジするように声掛けをする。□A
- ⑱長期休業中など、家庭でのお子さんの役目（お手伝い）などを決め、長い休みだからこそできる経験をさせる。□C
- ⑲自分のことは自分でさせる。□A、□B、□D
- ⑳働くことの意味づけ（家族が働く姿を見せる）□C
- ㉑目標を持たせる。□C
- ㉒PTA活動への参加。□D

地域にお願いしていく取り組み

- ①子どものチャレンジする姿を見守り声をかける。□A、□B
- ②子どもたちの日々の活動を見守り、肯定的な声掛けをする。□A、□B、□C
- ③職場体験学習への協力。□A、□D

目標Ⅱ 健康でたくましいこども**育成したい非認知能力：心身の健康とたくましさ**

- A**健康な心と体
- B**基本的な生活習慣を身につける
- C**あそびこめる力（集中力）・あきらめずに最後までやり遂げる力
- D**何事も楽しめる力（心の余裕）
- E**自分で考え判断し、自主的に行動できる力

保育所、幼稚園での取り組み

- ①毎日元気に全身を使って遊ぶ楽しさを経験できる環境をつくり、子ども同士で関わり合いながら生活や遊びの中で意欲的に十分に体を動かすことができるよう取り組む。**A**
- ②なぜ必要なのか、どうしてなのか等、子どもが納得いくような関わりをし、判断力を育てる。**E**
- ③否定的な言葉を使わず、肯定的な言葉を使うようにする。**E**
- ④生きていくための基礎となる、健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けていけるよう、正しい基本的生活習慣が身に付く取り組みを行う。**A**、**B**
- ⑤明るく伸び伸びと夢中になってあそべる環境を整え、個人差に配慮しながら充実感を味わえるようにする。**C**
- ⑥早寝早起き朝ごはん・年2回のすくすくリズムの取り組みにあたり、絵本・紙芝居の読み聞かせと、お便りによる呼びかけを行う**B**
- ⑦集中して遊べる時間を保障したり遊びが充実するよう、各年齢の発達に応じた主体的な遊びが展開できる環境が保証できるよう工夫する。**E**
- ⑧友だちの応援や励ましを受けながら、根気強く取り組み達成感を感じられるように、意図して保育を計画する**C**
- ⑨見通しをもって生活を自分たちで作る（グループ活動や行事の中での話し合い活動）子どもの意見を引き出し、認め見守る**E**
- ⑩いろんな事に興味関心を引き出し、集中して取り組めるような声掛けや働きかけをする**D**
- ⑪生活の中で、心地良さを充分味わいながら、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って生活するように援助する。**E**
- ⑫すぐにできなくてもあきらめず挑戦する姿勢を褒め励ますなど自分でしようとする気持ちを支えながら身辺自立を促していく。**C**
- ⑬一人一人の子どもが力を発揮し、主体的に動いていくことを経験していける活動から、自分でできたことに自信や満足感を持てるよう、あきらめずに続けた後の達成感を味わえるような経験が積み重ねられるようにする。**C**、**D**
- ⑭子どもの姿を丸ごと受け止め大切な存在であることを伝え、信頼関係を築き、安全基地となる。**A**
- ⑮日々の繰り返しの経験の中で「次は何をするのか」（生活習慣）「何のためにするのか」と理解でき、危険なことについても気づけるような援助をしていく。**E**
- ⑯何が出来るかではなく、何を願っているのかを汲み取り見守る。（理解する）また、それに対しての環境構成を考える。**E**
- ⑰朝の全力走、ふれあい体育など、リズムや体を動かす遊び、散歩を通して体を動かす気持ちよさを感じるとともに、負けまいと全力を出す姿勢が育まれるように、体を十分に動かして遊ぶ意欲を育てる。**A**、**D**
- ⑱自分なりに考えて納得のいく理由で物事の判断ができるように必要に応じて関わる。**E**
- ⑲様々な経験や遊びを通して、身の回りのことなど自分でできた時は一緒に喜び合い、疑問や気付きの中で、自分で考えることの楽しさを感じ達成感を味わえるようにしていく。**C**、**E**
- ⑳一人一人の健康状態の把握に努め、衛生的に安心して過ごせる環境を整える。**A**
- ㉑食育を大切にし、計画的に取り組んでいく。**A**、**B**

- ②園での生活や毎日の活動について、振り返りや話し合いをする場を設け、疑問に思ったことに対し失敗しても体験を通して理解できるようにする（プロセスを大事にする）C、E
- ③自然に触れながら感動したり、やってみたいこと見つけて遊ぶA、C、D

小学校での取り組み

- ①友達と関わりながら外で遊ぶことを推奨する。A、D
- ②体を動かすことの楽しさややり抜く経験、達成感を味わえる活動を体験させる。A、C
- ③生活リズム調べを通じて、生活習慣の実態や課題を把握するとともに、家庭と連携して早寝・早起き・朝ごはん等基本的な生活習慣の定着を図る。B
- ④児童が自分で決めた目標に向かって、意欲的に取り組み、達成感を味わうことができるよう活動内容を工夫する。B、E
- ⑤体育の授業の充実を図り、また体育の時間と外遊びの関連を図ることで、休み時間も体を動かす時間を設定する。A
- ⑥間違いや疑問を大切にせる授業づくり（間違ふことを恐れない、間違ふことから学びが始まる）C、E
- ⑦運動や食事、睡眠など、自分の身体や生活について系統的に学ぶ機会をつくる。A、B、C、E
- ⑧トライ＆エラーを前提とした学びの場の設定（授業・体験学習・集団宿泊学習）A、E
- ⑨委員会活動、各学級での係活動の充実E
- ⑩子どもたちによる全校レクの企画運営A、C、E

中学校での取り組み

- ①体育授業の充実A
- ②部活動C、E
- ③健康教育A、B
- ④仲間づくり研修、エンカウンタC、E
- ⑤自分自身でスケジュールを立て管理する場面を仕組み実行させる。B、E
- ⑥健康でいるための知識を得る。A、B
- ⑦指示を少なくし、見守る。（自分で考え行動することが大切であることを実感させる。）C、E
- ⑧体力向上への意欲付け。（部活動の充実と適切な支援）A、E
- ⑨生徒会保健部と連携した生活調べの実施とフィードバック。B、E
- ⑩より良い行事にするために生徒が工夫し実行する機会を設定。（実行委員会で作り上げる学校行事）E

家庭にお願いしていく取り組み

- ①生活リズムを整えることの大切さを知らせ、早寝早起き朝ごはんを実践、子どもの生活リズムを整える。A、B
- ②子どもが自ら考えしよふとすることに対して、見守る。C、D、E
- ③行事で頑張っていることを褒めて認めて共感するC
- ④子どもの興味関心を大切するD
- ⑤自然の中で体を使って遊ぶ経験をさせる。A
- ⑥バランスの良い食事をとれるように色んな食材を食べさせる。A
- ⑦乳幼児健診の受診。A
- ⑧その家庭のルールをつくり、家族みんなで守っていく。A、B、E
- ⑨基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）をしっかり身に付ける。A、B
- ⑩規則正しい生活リズムをつくるA、B
- ⑪ぐっすり眠れる環境づくりとバランスの取れた朝ごはんの用意A、B、C、D、E
- ⑫休みの日には家族で体を動かす活動に取り組む。A
- ⑬一緒にめあてに向かって取り組む。C、E

- ⑭子どもの頑張りを認める。□E
- ⑮家庭での基本的生活習慣の確立（生活調べへの協力）□B
- ⑯家を、子どもにとって安心できる場にする。□A
- ⑰SNS利用の際の、「時間・場所・1人で使わない」などのルールづくり□A、□E
- ⑱家庭のルール作り（メディアの使い方等）□B、□E

地域にお願いしていく取り組み

- ①地域の人たちとラジオ体操などからだ作りに関する活動を一緒にする。□A、□B
- ②子どもたちの活動場所の整備等、地域全体で環境を整える。□A、□D

目標Ⅲ 自尊感情・自己肯定感が高いこども**育成したい非認知能力：自尊感情・自己肯定感**

- ☐A 自分も他人も同じように大切にできる
- ☐B 自分の持つ良さに気付ける
- ☐C 多様性を認め合える
- ☐D 他人に共感することができる・悩みを共有することができる

保育所、幼稚園での取り組み

- ①子どものありのままの姿を受け入れ、大切な存在であることを伝え、安心して自分を出せるよう配慮する。☐A、☐B
- ②友達との生活や遊びの中で自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたり、共感したりし、個々の違いを認め合えるような経験を大切にする。☐A、☐C
- ③自分でやろうとしている思いを大切にし、見守ったり、前向きな言葉で励ましながら、成功体験を積み重ね、頑張った過程や成長した所をほめ、自分でできたという自信に繋がるような支援をする。☐B
- ④異年齢と関わる取り組みを意図的に仕組むことで、充実感や達成感を感じられるようにする。☐A、☐B、☐D
- ⑤したいことをじっくりと楽しめる時間と空間を保証する。☐B
- ⑥一人一人の姿を認め、自分の力を発揮できるように励まし、自分もクラスの仲間であることの喜びを感じたり、友達の良さを認めたり出来るようにする。☐B、☐C
- ⑦子どもの気持ちを代弁したり、共感する事で安心して自分が出せるように援助する。☐B
- ⑧安心して自分を出せるように信頼関係を築いていく。☐B
- ⑨乳児期の1対1の愛着関係の構築を大切にし、年齢が高くなるにつれて協同的な活動を意図的に組み込んでいく。☐A、☐D
- ⑩多くの行事（取り組み）を通して自己表現を育むことで自信をつける。☐B
- ⑪自分が大事にされることで、他者も大事にでき、相手を思いやれる気持ちを育てていく。☐A
- ⑫やろうとしている思いを受け止め、共感や認めの気持ちで見守りながら、子ども自身が出来た、と思えるような手助けをする。☐A
- ⑬家庭との連携を大切にし、子どもの心情、意欲、態度の育ちを保護者に丁寧に伝えていく。☐A

小学校での取り組み

- ①帰りの会や学級活動等で児童の良い言動や頑張り等を発表し、認め合う機会を設定する。☐A、☐B
- ②肯定的な声掛け・よいところ見つけ（帰りの会での振り返り等）を継続して行う。☐A、☐B
- ③相手のことを大切に話した話し方や聴き方を意識させるとともに、自分や友達のよいところを見つける活動を行う。☐A、☐B
- ④児童の頑張りや良さを認め、肯定的な声掛けを行う。また、結果だけではなく、その過程を褒めるようにする。☐A、☐B
- ⑤縦割り班や異学年交流など他者と交流する機会を意図的、計画的に設け、その活動を通して、自分の良さや成長を感じることができるようになるとともに、他者理解の経験を積ませる。☐A、☐B、☐C
- ⑥道徳の授業を中心に自分を見つめる授業実践。☐A、☐B、☐C、☐D
- ⑦友達の意見を受け入れたうえで自分の意見を言える学級づくり。☐C
- ⑧活動中や活動後に自己評価や他者評価ができる場面を設定する。☐C
- ⑨多様な人材との出会いと交流の場面の設定。☐C、☐D
- ⑩読書活動（読書・読み聞かせ・ストーリーテリング）の推進。☐D
- ⑪他者と交流する機会を意図的計画的に設け、他者理解の経験を積ませる。☐A、☐B、☐C、☐D
- ⑫道徳、人権教育の充実を図る。☐D
- ⑬具体的にほめる。☐B

- ⑭全校集会等の場で、他学年・他学級の児童の善行（してもらって嬉しかったこと等）を発表する機会を設定する。[A]、[B]、[C]
- ⑮児童相互が認めあえる肯定的な声掛けを行う。[A]、[B]
- ⑯「ありがとうの木」や「いい所見つけ」で、自分の良さに気づき、友だちの良さに気づく目を養う。
[A]、[B]
- ⑰自分の短所を長所に言い換えられるようにする。[A]、[B]
- ⑱自分をほめる機会をつくる。[A]、[B]

中学校での取り組み

- ①人権教育・道徳教育[A]、[B]、[C]、[D]
- ②日々の授業での協働的な学習と個別最適な学習を実施する。[A]、[B]、[C]
- ③行事等を通して異なる集団の交流と、認め合い助け合うことを実践する。[A]、[B]、[D]
- ④多様性等を理解し、自分も他人も認め、受け入れる心を育む。（人権学習や人権講演会を実施する）
[A]、[C]
- ⑤生徒同士の関わり合いの場を増やす。（学級での活動など）[C]
- ⑥生徒本人の達成感ある取組の支援。（各種行事、部活動、授業など）[B]
- ⑦外の声を積極的に伝える肯定的評価。（声掛け、通信など）[A]、[B]、[C]
- ⑧学校行事や、ボランティア活動、地域貢献活動などに参加し、異なる集団や地域との交流を通じて認め合い助け合うことで、自分が他の人や地域社会に対して役に立っていることを実感する。また、その行動を見取り、肯定的評価をする。[A]、[B]、[C]

家庭にお願いしていく取り組み

- ①「だいすきだよ」「ありがとう」と言葉で伝える等、触れ合いやスキンシップを大切にして愛着関係を育むとともに、安心して過ごせる環境づくりをする。[C]、[D]
- ②子どもの気持ちを否定せず、寄り添い、受けとめるとともに、できていること、自ら取り組んでいること、良いところ等をほめるなど、肯定的な表現で声掛けをする。[A]、[B]
- ③子どもの話を聞き意見を求め選択させたり、一緒に考える機会を作る。[B]
- ④子どもを丸ごと受けとめる。[B]
- ⑤家が一番安心して過ごせる場所であり、家族が支え合いながら生活していくことができる。[A]
- ⑥イヤイヤ気はゆったりとうけとめてもらう。[B]
- ⑦相手の立場に立って、してはいけないこととしていいことを家庭でしっかり子どもに伝える。[D]
- ⑧できていること、自ら取り組んでいることやよさをほめる。[B]
- ⑨子どもの言い分を聞く。（行動には理由がある。）[B]
- ⑩一家団欒の機会を増やし、笑顔で会話する機会を増やす。[A]、[B]
- ⑪子どもの行動を肯定的に見る。[B]
- ⑫児童の考えや気持ちを、まずは受け止める。[B]
- ⑬具体的にほめる。[B]
- ⑭成功体験を味わわせる。[B]
- ⑮肯定的な表現で声掛けをする。[B]
- ⑯家庭でのお子さんの役目（お手伝い）などを決め、「できた」「やりきった」「だれかの役に立った」につながる体験につなげる。[B]
- ⑰「高知の道徳」の活用[A]、[B]、[C]、[D]

地域にお願いしていく取り組み

- ①学習ボランティアに参加し、子どもたちと関わる機会を多くもつようにする。[A]、[B]、[C]、[D]
- ②肯定的な表現で声掛けをする。[A]、[B]、[C]、[D]
- ③子どもの良い所を見たらほめる。[A]、[B]、[C]、[D]
- ④子ども達と関わる機会を多く持つようにする。[A]、[B]、[C]

目標Ⅳ コミュニケーション能力のあるこども**育成したい非認知能力:コミュニケーション能力**

- A** あいさつができる
- B** 人の話をよく聞き、想像したり考えたりできる
- C** 自分の思いを自分の言葉で伝えることができる
- D** リーダーシップを発揮できる・仲間や他者と協働できる

保育所、幼稚園での取り組み

- ① 明るい笑顔で丁寧に挨拶を交わすことにより、人との関わりの心地よさを実感し、仲間と関わろうとする力を育む。**A**
- ② 子どもが自分の思いを伝えようとする気持ち・姿を十分に認め、共感し、支えていく。**B**、**C**
- ③ 子どもが話したい、伝えたいと思えるような心が動く体験を設定する。**C**
- ④ 絵本の読み聞かせを通して、言葉のやり取りを楽しむ。**B**
- ⑤ 対話を大切にし、自分の思いや意見を伝えられる場・時間を設ける。**B**、**C**
- ⑥ 自分の考えを出したり相手の考えを受け入れたりしながら友達と工夫したり協力したりして遊んだり、行事を作る楽しさを知る。**B**、**C**、**D**
- ⑦ 友達と触れ合う中で、いろいろな考え方があることに気づき、自分の思いに折り合いを付けながら、友達と一緒に一つの物を作り上げていく。**B**、**D**
- ⑧ 愛着関係を大切にし、何でも言える関係づくりから他人に優しく思いやりが持てるようにする。**B**、**C**
- ⑨ 一人一人の興味に寄り添い、伝えることに喜びを感じられる関わりを大切にする。**C**
- ⑩ 好きな遊びを友達と一緒に楽しむ中で関わりを深める。**B**
- ⑪ 遊びや生活の中で友達と関わり、自分の思いを言葉で伝えたり友達の気持ちに気づいたり我慢したりする経験をする。**C**
- ⑫ 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し相手の話を聞く態度を身に付ける。**B**、**C**
- ⑬ 自分の考えを十分に出したり、友達の考えを聞いたりしながら遊びや生活を進めていけるように見守ったり投げかけたりする。また、トラブルが起きたときは、自分たちで考え解決しようとする過程を大切にしていく。**B**、**C**、**D**
- ⑭ 見たて遊びからごっこ遊びへと展開していくように子どもの経験を豊かなものにしていく。**B**、**C**
- ⑮ 子どもたち一人一人が十分に思いを発揮できるような援助をする。けんかの際は、大人が先導して解決するのではなく自分たちなりに解決できるようにしていく。**C**
- ⑯ 絵本の読み聞かせの中で言葉のやり取りを楽しみながら、友達や大人と気持ちを通わせる経験をさせていく。**B**
- ⑰ 帰りの会で友だちの前でその日のスピーチをする。**B**、**C**
- ⑱ 子どもの話をよく聞きながら、思いを受け止めていく。**C**
- ⑲ 友達やまわりの大人と会話し、人と関わることの大切さを感じられるようにしていく。**B**
- ⑳ 異年齢の友達と関わる中で、思いやりの気持ちや憧れる気持ちを育てる。**B**
- ㉑ 友だちの気持ちや関わり方を知らせ、ふれあいが楽しくなるようにする。**B**
- ㉒ (1, 2 才) 1 人 1 人のあまえや要求が十分に満たされるよう受容的、応答的な関わりをする。**B**、**C**
- ㉓ (1, 2 才) 言葉で表現できない要求をくみ取り、共感的な関わりで代弁し、子どもの自己主張を助ける。**B**、**C**
- ㉔ 友達とのかかわりが活発になる中で、トラブルや葛藤の場面を大事にし、友達の意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりすることで、新たな視点を見出していけるようにする。**B**、**D**
- ㉕ みんなで友達を応援したり、達成できたことを喜び合ったりする時間を大切に、仲間意識を持てるようにする。**B**、**D**

- ②⑥子どもが話しやすい環境を作り、話をよく聞く。[C]
②⑦愛着関係を大切に、何でも言える関係づくりから他人に優しく思いやりが持てるようにする。[C]

小学校での取り組み

- ①あいさつ運動（あいさつ・いい返事・運動・笑顔・思いやり）を学校のスローガンとし、場面場面で意識づけさせる機会を設ける。[A]
②対話を重視した行事（あいさつ週間の設定、全校NIE）を行う。[A]
③授業では、児童の考えや思いが反映されるような展開を構築することで、表現しようとする意欲や態度を育む。[C]
④誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶が習慣的にできるよう取り組む。[A]
⑤自分の思いや考えを持ち、様々な方法で表現できる活動を設定する。[C]
⑥対話を重視した授業（聞く力・伝える力）を実施し、自分の考えや思いを伝えあい、ともに学びあう授業を行う。[B]、[C]
⑦協働して課題解決する力を育成できるよう、学習過程を工夫する。[B]、[C]、[D]
⑧人の話を最後まで聴くことを大切にしよう徹底する。[B]
⑨自分の考えや意見を安心して言える雰囲気づくりをする。[B]、[C]
⑩傾聴の姿勢で児童に接する。[C]
⑪挨拶・返事・言葉遣いの指導を徹底する。[A]、[B]
⑫日々の授業中で、ペアやグループ等で意見交流、ディスカッション等の学習活動を積極的に行う。[B]、[C]
⑬教育活動すべてにおいて、相手を大切に言動を心がけるよう促していく。[B]、[C]
⑭全校レクなどを通じた異学年交流の実施。[D]

中学校での取り組み

- ①授業（根拠をもとに自分の考えを表現する）[C]
②生徒主体の学校行事の充実。[D]
③日々の授業での意見交流（自分の意見をもち伝えること、他者の意見を聞き自分の考えを深めることを活発にさせる）[B]、[C]
④生徒会を中心に挨拶運動等を実施し大切さを伝える。[A]
⑤異学年交流や地域との交流、校種間の交流を実施する。[D]
⑥書くこと、聞くこと、話すことを大事にした指導・支援。（NIE集会、学びタイム）[B]、[C]
⑦発表や伝える場の設定。（学級活動、NIE集会、生徒集会、各種行事など）[C]
⑧あいさつの充実。（あいさつ運動）[A]

家庭にお願いしていく取り組み

- ①家庭内での「おはよう」等の挨拶を親から進んで行い、お礼の気持ちを伝えあう。[A]
②子どもの話に耳を傾け、子どもとの対話を楽しむ機会をつくる。[B]、[C]
③絵本の読み聞かせ。[B]
④子どもが聞いてほしいことを話そうとする時に、しっかりと聴いてあげるようにする。[B]、[C]
⑤子どもの話をよく聴く。[B]、[C]
⑥家庭の中でも挨拶を徹底し、習慣化する。[A]
⑦家庭でも家族に自分の思いを伝えることができるようにし、親は子どもの話をしっかりと聞く。[B]、[C]
⑧子どもの目を見て話を聴く。[B]、[C]
⑨学校行事への積極的な参加。[D]
⑩子どもの話を最後まで聞く。[B]、[C]
⑪食事の時にはテレビ等を消して、お互いに一日の出来事を話し、お互いにしっかりと聴く。[B]、[C]
⑫保護者同士のつながりの強化（PTA活動を通して）[D]

⑬親子の会話[B]、[C]

地域にお願いしていく取り組み

- ①「おはよう」「こんにちは」等、笑顔で挨拶をする。[A]
- ②子どもと話す機会があるときには、まず子どもの声に耳を傾け話を聞く。[C]
- ③子どもを見守り、あいさつ等の声掛けをする。[A]、[B]
- ④地域の子供達へのあいさつ、声掛けを積極的に行う。[A]
- ⑤職場体験学習への協力。[D]
- ⑥読み聞かせ[B]、[C]

目標Ⅴ ふるさとを愛するこども**育成したい非認知能力：ふるさとを愛する心**

- A** ふるさと（家族や地域、それぞれの単位のルーツ）についてもっと知りたい、関わりたいという心を持てる
- B** ふるさとし愛する心や親しみを持てる
- C** ふるさとに関わる情報発信ができる

保育所、幼稚園での取り組み

- ①散歩（園外保育）に出かけ、地域の人と挨拶を交わしたり、動植物等と触れ合う体験をし、地域の豊かさを知り親しみを持てるようにする。**A**
- ②地域のイベントに参加し、地域の人と触れ合う機会を持ち、楽しむ体験をする。**B**、**C**
- ③地域における歴史や文化の伝承（稚児行列や市民祭の中村おどり等）に子どもが主体的に参加することで、地域を知る機会を増やす**B**。
- ④将来的に保育所が地域コミュニティの拠点となることも視野に入れ、保育所行事に地域の人を招く**A**、**B**
- ⑤身近な人や環境に親しみ触れ合う中で、様々なものに興味や関心を持てるようにする。**A**
- ⑥生物や自然物の採取に興味を持たせ楽しい経験をすることで地域に目を向ける機会を作る。**A**、**B**
- ⑦ありがとうの日（家族の日）や敬老会等で家族や祖父母に感謝の気持ちが持てるようにしていく。**B**
- ⑧田植え稲刈り、野菜や果物の収穫を通じ、地域や園外と交流する。**A**、**B**
- ⑨交流の場に参加して発表を見てもらったり、保育所に来てもらって触れ合うなかで地域の方の温かさに触れる。**B**、**C**

小学校での取り組み

- ①生活科や総合的な学習の時間を中心に、児童の興味や関心を大切にしながら、地域の人と関わり、地域の良さや課題を知ることができる学習内容を設定する。**A**
- ②四万十市の取組「ふるさと発見 四万十子ども研究発表会」等に向けて、地域の歴史・文化を深掘りし学習することで、よりふるさとを愛する心情を育てていく。**B**、**C**
- ③地域行事やイベントへの参加を呼びかける。**C**
- ④地域を知り、地域から学ぶ学習（よさ・課題等）の推進。**A**
- ⑤毎年行っている地域とともに「史跡巡り」と「学習発表会」を続ける。**C**
- ⑥自分の住む地域の良さや課題について系統的に学ぶ。**A**
- ⑦地域での安全な暮らしや防災について学ぶ。**A**
- ⑧地元を対象に人・物・自然・文化等の、魅力の掘り起しにつながるフィールドワーク。**A**

中学校での取り組み

- ①総合的な学習において、地域の様々な活動を通して自ら課題を見だし、解決するための情報を収集し解決策を模索しそれらを情報発信することを教師が見取り評価をする。**A**
- ②教科学習の中でのふるさと等に関する学び**B**、**C**
- ③総合的な学習の時間で、地域の課題を解決し、取り組みに移していくことを、地域でできる事だけではなく、市、県など、広い視野で方策について考えさせる力を養う。**A**、**B**、**C**
- ④中学生として地域に貢献できる活動を考え実行する。**C**
- ⑤郷土の人、モノへの出会い直し。**A**、**B**
- ⑥郷土にかかわる探究を含む総合的な学習の時間の充実。**A**

家庭にお願いしていく取り組み

- ①地域で行われるイベントや伝統行事等に親子で参加する。[A]
- ②祖父母と触れ合い、大切にする。[A]、[B]
- ③親子でゆっくりお散歩したりすることで、自分の住んでいる地域の事を知る。[A]
- ④地域の人にも進んで挨拶をする。[C]
- ⑤地域の行事などに親子で積極的に参加し、地域の良さを知る。[A]、[B]、[C]
- ⑥保護者企画のイベントの実施。(キャンプなど) [A]、[B]
- ⑦親子で地域を散策したり、家庭菜園に取り組むなど、自然に触れる実体験を通して、子どもが学びや発見を深められるよう、家庭で積極的に機会を設ける。[A]、[B]

地域にお願いしていく取り組み

- ①子ども達を見かけたら、声をかけたり温かく関わってもらいたい。[B]
- ②子どもの園外保育に出会ったら、その場所に関する話をしてほしい。[A]、[B]
- ③むかし遊びや音楽等、子どもたちに向けた文化的行事を行う際、保育所から地域の方を講師として招くことがあるので応じてほしい。[A]、[B]
- ④地域の方も学校教育(行事や取組、学習支援など)に参加し、子どもの様子を知り、関わりを増やす。
[B]
- ⑤自然や伝統、地域の人材など地域の良さを積極的に子どもたちに伝えていく。[A]
- ⑥地域の伝統的行事を伝承する。[A]
- ⑦総合的な学習の時間や社会科の地域学習の際の協力。[A]、[B]
- ⑧地域の行事等に参加することを保護者を通して投げかける。[A]、[B]
- ⑨地域の行事に児童を巻き込み、文化の伝承を行う。[B]

【育成したい非認知能力】Ⅰ チャレンジ精神

【目指す姿】チャレンジ精神のあるこども（**A**失敗してもあきらめず挑戦できる、**B**勇気を持って行動できる、**C**課題にコツコツ取り組める・目標に向けて努力（自分磨き）ができる、**D**何事にも意欲的に取り組める）

保育所・幼稚園	小学校	中学校	家庭	地域
①園児の興味や関心を引き出し、自分でやってみたいと思える活動を設定する。そこで生まれたやりたい気持ちに共感し、「やってみたい。」という意欲を阻害しないようチャレンジしたことを認め、応援したり励ましたりしながら自立、自律できるように支え見守る。A、B、C、D ②失敗体験を受け止めながら、少し頑張ったら達成できる目標をつくり、小さな成功体験を仲間と一緒に見出す経験をたくさん積み重ねることができるようになる。A、C ③応援したり励まし合ったりできる友だち関係を築く。A、C ④個々の発達に応じ、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かす意欲を育てる。D ⑤失敗しても何度でも挑戦できる気持ちを育みながら、友達と同じ目標をもって自分なりに頑張ろうとする機会を作る。A ⑥上の年齢の子どもの姿を見て憧れを持てる異年齢保育を取り入れる。B ⑦人前で自信を持って表現できる力をつける。B ⑧初めて経験することも、まずは大人と一友だちと→1人でやってみようと段階を踏んで挑戦させる。B ⑨子どもの興味や関心が広がるように環境を整え、自分のこだわりを持って心と体を働かせて主体的に探求しようとする姿を見守る。D ⑩心の動きに共感し、遊びを見守りながら、頑張っている過程を褒め認めたり励ましたりする。A、C ⑪一人ひとりの頑張っている姿を子ども自身に具体的に伝えることで、失敗しても大丈夫という安心感を持てるようにしていく。A ⑫自分なりの課題をみつけて繰り返し挑戦したり最後までがんばろうとする姿を認め、充実感や達成感を味わえるようにしていく。A、C ⑬友達や保育者と一緒に工夫し、試行錯誤しながら遊びや生活の中で、頑張ったり、我慢したり、自分のことがすごいと思えたりできる経験ができる機会を存分に作る。A、C、D ⑭遊びや生活の中で気づいた事、できるようになった事なども使い、試したり工夫したり表現したりしながら目標に向けて取り組む。C、D ⑮子どもの意欲を大事にし、自発的なやりたいという自我が芽生えてきたことを大切な事として喜び、意欲の発達の姿としてゆったりとした気持ちで受け止め活動を保障し、気持ちの育ちやプロセスを大切に作る。C、D ⑯様々な遊びを通して、じっくりと取り組むことで達成感や満足感を感じることができるようになる。B、C	①児童が得意なことを認め、励ますことで自信をつけさせ他分野への挑戦へのきっかけづくりとする。B ②自主性を生かした活動を推進する。C ③何度でも挑戦できる雰囲気の中で、児童のやりたいという思いを大切にしながら、新たな出会いのある活動を仕組む。A ④児童が目的意識をもって主体的に取り組むことができる活動を設定する。C ⑤失敗を乗り越えたり苦手なことにも挑戦する場を設定する。A ⑥結果だけでなく目標を持って取り組む過程も肯定的に評価する（達成感をもたせる）。C ⑦自然体験学習・集団宿泊学習等、日常から距離を置いて、新たな自分への気づきにつながる学習機会の設定。B ⑧具体的な目標を持たせ、見通しをもって活動させる。C、D ⑨目標を決めて定期的に振り返りを行い、可視化して評価する。C ⑩ミスや失敗を肯定的に捉え、どうすればよかったのかを考えさせる。A ⑪課題に対して、多様な考えで解決しようとする学習内容を設定する。（教育現場においては、探究的な学習活動を意図的・計画的に設定し、児童に自己決定や自発的・能動的な学びの機会を保障する。）C、D ⑫キャリアシートの活用（行事ごとの目標設定）。C ⑬やったことがないことに取り組ませる場面を工夫する。B ⑭できるようになった経験を振り返らせる。C ⑮スモールステップで達成感を感じさせ、最終ゴールを達成させる。C ⑯温かい励ましとやる気になる評価をする。A、B、D	①学校における部活動を含む全ての教育活動で、失敗したり思うような成果がでないときも、努力する姿勢は、きっと今後の人生にプラスになると伝え励まし、新たな挑戦へ繋げる。A、C ②生徒会活動・行事。A、D ③進路目標を持ちそれを達成するために短期目標を設定し、日々努力し続けてクリアしていく姿を記録に残し評価していくことで目標達成まで継続して努力できるようにする。C ④問題解決型の授業を通して、生徒が課題を自分事としてとらえ、自己決定し、未知の問題解決に挑む力を育成する。D ⑤自己決定の場を多く設定し、その考えを尊重する。B、C、D ⑥スモールステップを踏んで協力していく大切さを実感させる。（短期目標を設定し達成させ、達成感を与える）C ⑦自主性や主体性を持たせる指導。D ⑧生徒が自分で決める機会を設定。（NIE集会）B、C、D ⑨チャレンジ・やり直しを肯定的に評価。（学びタイム、部活動）A ⑩振り返りの充実。（各種行事）C	①子どもの意欲や頑張っている姿を、認め、励まし、褒めて、気持ちを共感する。A、B、C、D ②子どもの挑戦する気持ちに寄り添い、大らかな気持ちで見守る。A、B、C、D ③親が自ら挑戦する姿を子どもに見せる。A、B ④子どもが興味を持ったことは進んで後押しし見守る。A、B、C、D ⑤失敗を恐れず挑戦できるように声掛けをする。A、B、C ⑥やろうとする気持ちを支える。B、C、D ⑦子どもの頑張りを見守り、応援していく。A、B、C、D ⑧失敗は成功の基、失敗を恐れずにチャレンジできるよう声をかける。A ⑨家庭で会話をする場面を作り、子どもの頑張りを応援する。A、B、C、D ⑩チャレンジしようとする気持ちや行動を応援する。A、B、C、D ⑪結果だけでなく、取り組みの過程を評価する。A、B ⑫いろいろな体験をさせ、それを振り返ることを日常会話の中で行う。C ⑬自らやろうとしたことを評価する。B、D ⑭児童の興味・関心を大事にする。D ⑮ミスや失敗を肯定的に捉え、どうすればよかったのかを考えさせる。A ⑯お手伝いをさせる等家庭の一員であることの自覚を持たせる。C ⑰失敗を恐れずに前向きにチャレンジするように声掛けをする。A ⑱長期休業中など、家庭でのお子さんの役目（お手伝い）などを決め、長い休みだからこそできる経験をさせる。C ⑲自分のことは自分でさせる。A、B、D ⑳働くことの意味づけ（家族が働く姿を見せる）C ㉑目標を持たせる。C ㉒PTA活動への参加。D	①子どものチャレンジする姿を見守り声をかける。A、B ②子どもたちの日々の活動を見守り、肯定的な声掛けをする。A、B、C ③職場体験学習への協力。A、D

【育成したい非認知能力】Ⅱ 心身の健康とたくましさ 【目指す姿】健康でたくましいこども (A健康な心と体、B基本的な生活習慣を身につける、Cあそびこめる力(集中力)・あきらめずに最後までやり遂げる力、D何事も楽しめる力(心の余裕)、E自分で考え判断し、自主的に行動できる力)

保育所・幼稚園	小学校	中学校	家庭	地域
①毎日元気に全身を使って遊ぶ楽しさを体験できる環境をつくり、子ども同士で関わり合いながら生活や遊びの中で意欲的に十分に体を動かすことができるよう取り組む。A ②なぜ必要なのか、どうしてなのか等、子どもが納得いくような関わりをし、判断力を育てる。E ③否定的な言葉を使わず、肯定的な言葉を使うようにする。E ④生きていくための基礎となる、健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けていけるよう、正しい基本的生活習慣が身に付き取り組みを行う。A、B ⑤明るく伸び伸びと夢中になってあそべる環境を整え、個人差に配慮しながら充実感を味わえるようにする。C ⑥早寝早起き朝ごはん・年2回のすくすくリズムの取り組みにあたり、絵本・紙芝居の読み聞かせと、お便りによる呼びかけを行うB ⑦集中して遊べる時間を保障したり遊びが充実するよう、各年齢の発達に応じた主体的な遊びが展開できる環境が保証できるよう工夫する。E ⑧友だちの応援や励ましを受けながら、根気強く取り組み達成感を感じられるように、意図して保育を計画するC ⑨見通しをもって生活を自分たちで作る(グループ活動や行事の中での話し合い活動) 子どもの意見を引き出し、認め見守るE ⑩いろんな事に興味関心を引き出し、集中して取り組めるような声掛けや働きかけをするD ⑪生活の中で、心地良さを充分味わいながら、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って生活するように援助する。E ⑫すぐにできなくてもあきらめず挑戦する姿勢を褒め励ますなど自分でしようとする気持ちを支えながら身辺自立を促していく。C ⑬一人一人の子どもの力が発揮し、主体的に動いていくことを経験していける活動から、自分でできたことに自信や満足感を持てるよう、あきらめずに続けた後の達成感を味わえるような経験が積み重ねられるようにする。C、D ⑭子どもの姿を丸ごと受け止め大切な存在であることを伝え、信頼関係を築き、安全基地となる。A ⑮日々の繰り返しの経験の中で「次は何をするのか」(生活習慣)「何のためにするのか」と理解でき、危険なことについても気づけるような援助をしていく。E ⑯何が出来るかではなく、何を願っているのかを汲み取り見守る。(理解する) また、それに対しての環境構成を考える。E ⑰朝の全力走、ふれあい体育など、リズムや体を動かす遊び、散歩を通して体を動かす気持ちよさを感じるとともに、負けまいと全力を出す姿勢が育まれるように、体を十分に動かして遊ぶ意欲を育てる。A、D ⑱自分なりに考えて納得のいく理由で物事の判断ができるように必要に応じて関わる。E ⑲様々な経験や遊びを通して、身の回りのことなど自分でできた時は一緒に喜び合い、疑問や気付きの中で、自分で考えることの楽しさを感じ達成感を味わえるようにしていく。C、E ⑳一人一人の健康状態の把握に努め、衛生的に安心して過ごせる環境を整える。A ㉑食育を大切に、計画的に取り組んでいく。A、B ㉒園での生活や毎日の活動について、振り返りや話し合いをする場を設け、疑問に思ったことに対し失敗しても体験を通して理解できるようにする(プロセスを大事にする)C、E ㉓自然に触れながら感動したり、やってみたいこと見つけて遊ぶA、C、D	①友達と関わりながら外で遊ぶことを推奨する。A、D ②体を動かすことの楽しさややり抜く経験、達成感を味わえる活動を体験させる。A、C ③生活リズム調べを通じて、生活習慣の実態や課題を把握するとともに、家庭と連携して早寝・早起き・朝ごはん等基本的生活習慣の定着を図る。B ④児童が自分で決めた目標に向かって、意欲的に取り組み、達成感を味わうことができるよう活動内容を工夫する。B、E ⑤体育の授業の充実を図り、また体育の時間と外遊びの関連を図ることで、休み時間も体を動かす時間を設定する。A ⑥間違いや疑問を大切にする授業づくり(間違えることを恐れない、間違えることから学びが始まる)C、E ⑦運動や食事、睡眠など、自分の身体や生活について系統的に学ぶ機会をつくる。A、B、C、E ⑧トライ&エラーを前提とした学びの場の設定(授業・体験学習・集団宿泊学習)A、E ⑨委員会活動、各学級での係活動の充実E ⑩子どもたちによる全校レクの企画運営A、C、E	①体育授業の充実A ②部活動C、E ③健康教育A、B ④仲間づくり研修、エンカウンタC、E ⑤自分自身でスケジュールを立て管理する場面を仕組み実行させる。B、E ⑥健康でいるための知識を得る。A、B ⑦指示を少なくし、見守る。(自分で考え行動することが大切であることを実感させる。)C、E ⑧体力向上への意欲付け。(部活動の充実と適切な支援)A、E ⑨生徒会保健部と連携した生活調べの実施とフィードバック。B、E ⑩より良い行事にするために生徒が工夫し実行する機会を設定。(実行委員会で作り上げる学校行事)E	①生活リズムを整えることの大切さを知らせ、早寝早起き朝ごはんを実践、子どもの生活リズムを整える。A、B ②子どもが自ら考えようとするのに対して、見守る。C、D、E ③行事で頑張っていることを褒めて認めて共感するC ④子どもの興味関心を大切にするD ⑤自然の中で体を使って遊ぶ経験をさせる。A ⑥バランスの良い食事をとれるように色んな食材を食べさせる。A ⑦乳幼児健診の受診。A ⑧その家庭のルールをつくり、家族みんなで守っていく。A、B、E ⑨基本的生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)をしっかり身に付ける。A、B ⑩規則正しい生活リズムをつくるA、B ⑪ぐっすり眠れる環境づくりとバランスの取れた朝ごはんの用意A、B、C、D、E ⑫休みの日には家族で体を動かす活動に取り組む。A ⑬一緒にめあてに向かって取り組む。C、E ⑭子どもの頑張りを認める。E ⑮家庭での基本的生活習慣の確立(生活調べへの協力)B ⑯家を、子どもにとって安心できる場にする。A ⑰SNS利用の際の、「時間・場所・1人で使わない」などのルールづくりA、E ⑱家庭のルール作り(メディアの使い方等)B、E	①地域の人たちとラジオ体操などからだ作りに関する活動と一緒にする。A、B ②子どもたちの活動場所の整備等、地域全体で環境を整える。A、D

【育成したい非認知能力】Ⅲ自尊感情・自己肯定感 【目指す姿】自尊感情・自己肯定感が高い子ども（**A**自分も他人も同じように大切にできる、**B**自分の持つ良さに気付ける、**C**多様性を認め合える、**D**他人に共感することができる・悩みを共有することができる）

保育所・幼稚園	小学校	中学校	家庭	地域
①子どものありのままの姿を受け入れ、大切な存在であることを伝え、安心して自分を出せるよう配慮する。A、B ②友達との生活や遊びの中で自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたり、共感したりし、個々の違いを認め合えるような経験を大切に作る。A、C ③自分でやろうとしている思いを大切に、見守ったり、前向きな言葉で励まししながら、成功体験を積み重ね、頑張った過程や成長した所をほめ、自分でできたという自信に繋がるような支援をする。B ④異年齢と関わる取り組みを意図的に仕組むことで、充実感や達成感を感じられるようにする。A、B、D ⑤したいことをじっくりと楽しめる時間と空間を保障する。B ⑥一人一人の姿を認め、自分の力を発揮できるように励まし、自分もクラスの仲間であることの喜びを感じたり、友達の良さを認めたり出来るようにする。B、C ⑦子どもの気持ちを代弁したり、共感する事で安心して自分が出せるように援助する。B ⑧安心して自分を出せるように信頼関係を築いていく。B ⑨乳児期の1対1の愛着関係の構築を大切に、年齢が高くなるにつれて協同的な活動を意図的に組み込んでいく。A、D ⑩多くの行事（取り組み）を通して自己表現を育むことで自信をつける。B ⑪自分が大事にされることで、他者も大事にでき、相手を思いやる気持ちを育てていく。A ⑫やろうとしている思いを受け止め、共感や認めの気持ちで見守りながら、子ども自身が出来た、と思えるような手助けをする。A ⑬家庭との連携を大切に、子どもの心情、意欲、態度の育ちを保護者に丁寧に伝えていく。A	①帰りの会や学級活動等で児童の良い言動や頑張り等を発表し、認め合う機会を設定する。A、B ②肯定的な声掛け・よいところ見つけ（帰りの会での振り返り等）を継続して行う。A、B ③相手のことを大切に話し方や聴き方を意識させるとともに、自分や友達のよいところを見つける活動を行う。A、B ④児童の頑張りや良さを認め、肯定的な声掛けを行う。また、結果だけではなく、その過程を褒めるようにする。A、B ⑤縦割り班や異学年交流など他者と交流する機会を意図的、計画的に設け、その活動を通して、自分の良さや成長を感じることができるようになるとともに、他者理解の経験を積ませる。A、B、C ⑥道徳の授業を中心に自分を見つめる授業実践。A、B、C、D ⑦友達の意見を受け入れたうえで自分の意見を言える学級づくり。C ⑧活動中や活動後に自己評価や他者評価ができる場面を設定する。C ⑨多様な人材との出会いと交流の場面の設定。C、D ⑩読書活動（読書・読み聞かせ・ストーリーテリング）の推進。D ⑪他者と交流する機会を意図的計画的に設け、他者理解の経験を積ませる。A、B、C、D ⑫道徳、人権教育の充実を図る。D ⑬具体的にほめる。B ⑭全校集会等の場で、他学年・他学級の児童の善行（してもらって嬉しかったこと等）を発表する機会を設定する。A、B、C ⑮児童相互が認めあえる肯定的な声掛けを行う。A、B ⑯「ありがとうの木」や「いい所見つけ」で、自分の良さに気づき、友だちの良さに気づく目を養う。A、B ⑰自分の短所を長所に言い換えられるようにする。A、B ⑱自分をほめる機会をつくる。A、B	①人権教育・道徳教育A、B、C、D ②日々の授業での協働的な学習と個別最適な学習を実施する。A、B、C ③行事等を通して異なる集団の交流と、認め合い助け合うことを実践する。A、B、D ④多様性等を理解し、自分も他人も認め、受け入れる心を育む。（人権学習や人権講演会を実施する）A、C ⑤生徒同士の関わり合いの場を増やす。（学級での活動など）C ⑥生徒本人の達成感ある取組の支援。（各種行事、部活動、授業など）B ⑦外の声を積極的に伝える肯定的評価。（声掛け、通信など）A、B、C ⑧学校行事や、ボランティア活動、地域貢献活動などに参加し、異なる集団や地域との交流を通じて認め合い助け合うことで、自分が他の人や地域社会に対して役に立っていることを実感する。また、その行動を見取り、肯定的評価をする。A、B、C	①「だいすきだよ」「ありがとう」と言葉で伝える等、触れ合いやスキンシップを大切に愛着関係を育むとともに、安心して過ごせる環境づくりをする。C、D ②子どもの気持ちを否定せず、寄り添い、受けとめるとともに、できていること、自ら取り組んでいること、良いところ等をほめるなど、肯定的な表現で声掛けをする。A、B ③子どもの話を聞き意見を求め選択させたり、一緒に考える機会を作る。B ④子どもを丸ごと受けとめる。B ⑤家が一番安心して過ごせる場所であり、家族が支え合いながら生活していくことができる。A ⑥イヤイヤ気はゆったりと受けとめてもらう。B ⑦相手の立場に立って、してはいけないこととしていいことを家庭でしっかり子どもに伝える。D ⑧できていること、自ら取り組んでいることやよさをほめる。B ⑨子どもの言い分を聞く。（行動には理由がある。）B ⑩一家団欒の機会を増やし、笑顔で会話する機会を増やす。A、B ⑪子どもの行動を肯定的に見る。B ⑫児童の考えや気持ちを、まずは受け止める。B ⑬具体的にほめる。B ⑭成功体験を味わわせる。B ⑮肯定的な表現で声掛けをする。B ⑯家庭でのお子さんの役目（お手伝い）などを決め、「できた」「やりきった」「だれかの役に立った」につながる体験につなげる。B ⑰「高知の道徳」の活用A、B、C、D	①学習ボランティアに参加し、子どもたちと関わる機会を多くもつようにする。A、B、C、D ②肯定的な表現で声掛けをする。A、B、C、D ③子どもの良い所を見たらほめる。A、B、C、D ④子ども達と関わる機会を多く持つようにする。A、B、C

【育成したい非認知能力】Ⅳコミュニケーション能力 【目指す姿】 コミュニケーション能力のある子ども (A)あいさつができる、(B)人の話をよく聞き、想像したり考えたりできる、(C)自分の思いを自分の言葉で伝えることができる、(D)リーダーシップを発揮できる・仲間や他者と協働できる)

保育所・幼稚園	小学校	中学校	家庭	地域
①明るく笑顔で丁寧に挨拶を交わすことにより、人との関わり心地よさを実感し、仲間と関わろうとする力を育む。(A) ②子どもが自分の思いを伝えようとする気持ち・姿を十分に認め、共感し、支えていく。(B、C) ③子どもが話したい、伝えたいと思えるような心が動く体験を設定する。(C) ④絵本の読み聞かせを通して、言葉のやり取りを楽しむ。(B) ⑤対話を大切にし、自分の思いや意見を伝えられる場・時間を設ける。(B、C) ⑥自分の考えを出したり相手の考えを受け入れたりしながら友達と工夫したり協力したりして遊んだり、行事を作る楽しさを知る。(B、C、D) ⑦友達と触れ合う中で、いろいろな考え方があることに気づき、自分の思いに折り合いを付けながら、友達と一緒に一つの物を作り上げていく。(B、D) ⑧愛着関係を大切にし、何でも言える関係づくりから他人に優しく思いやりが持てるようにする。(B、C) ⑨一人一人の興味に寄り添い、伝えることに喜びを感じられる関わりを大切にする。(C) ⑩好きな遊びを友達と一緒に楽しむ中で関わりを深める。(B) ⑪遊びや生活の中で友達と関わり、自分の思いを言葉で伝えたり友達の気持ちに気づいたり我慢したりする経験をする。(C) ⑫経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し相手の話を聞く態度を身に付ける。(B、C) ⑬自分の考えを十分に出したり、友達の考えを聞いたりしながら遊びや生活を進めていけるように見守ったり投げかけたりする。また、トラブルが起きたときは、自分たちで考え解決しようとする過程を大切にしていく。(B、C、D) ⑭見たて遊びからごっこ遊びへと展開していくように子どもの経験を豊かなものにしていく。(B、C) ⑮子どもたち一人一人が十分に思いを発揮できるような援助をする。けんかの際は、大人が先導して解決するのではなく自分たちなりに解決できるようにしていく。(C) ⑯絵本の読み聞かせの中で言葉のやり取りを楽しみながら、友達や大人と気持ちを通わせる経験をさせていく。(B) ⑰帰りの会で友だちの前でその日のスピーチをする。(B、C) ⑱子どもの話をよく聞きながら、思いを受け止めていく。(C) ⑲友達やまわりの大人と会話し、人と関わることの大切さを感じられるようにしていく。(B) ⑳異年齢の友達と関わる中で、思いやりの気持ちや憧れる気持ちを育てる。(B) ㉑友だちの気持ちや関わり方を知らせ、ふれあいを楽しめるようにする。(B) ㉒(1,2才) 1人1人のあまねや要求が十分に満たされるよう受容的、応答的な関わりをする。(B、C) ㉓(1,2才) 言葉で表現できない要求をくみ取り、共感的な関わりで代弁し、子どもの自己主張を助ける。(B、C) ㉔友達とのかかわりが活発になる中で、トラブルや葛藤の場面を大事にし、友達の意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりすることで、新たな視点を見出していけるようにする。(B、D) ㉕みんなで友達を応援したり、達成できたことを喜び合ったりする時間を大切に、仲間意識を持てるようにする。(B、D) ㉖子どもが話しやすい環境を作り、話をよく聞く。(C) ㉗愛着関係を大切に、何でも言える関係づくりから他人に優しく思いやりが持てるようにする。(C)	①あいさつ運動(あいさつ・いい返事・運動・笑顔・思いやり)を学校のスローガンとし、場面場面で意識づけさせる機会を設ける。(A) ②対話を重視した行事(あいさつ週間の設定、全校NIE)を行う。(A) ③授業では、児童の考えや思いが反映されるような展開を構築することで、表現しようとする意欲や態度を育む。(C) ④誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶が習慣的にできるよう取り組む。(A) ⑤自分の思いや考えを持ち、様々な方法で表現できる活動を設定する。(C) ⑥対話を重視した授業(聞く力・伝える力)を実施し、自分の考えや思いを伝えあい、ともに学びあう授業を行う。(B、C) ⑦協働して課題解決する力を育成できるよう、学習過程を工夫する。(B、C、D) ⑧人の話を最後まで聴くことを大切にするよう徹底する。(B) ⑨自分の考えや意見を安心して言える雰囲気づくりをする。(B、C) ⑩傾聴の姿勢で児童に接する。(C) ⑪挨拶・返事・言葉遣いの指導を徹底する。(A、B) ⑫日々の授業中で、ペアやグループ等で意見交流、ディスカッション等の学習活動を積極的に行う。(B、C) ⑬教育活動すべてにおいて、相手を大切にしたい言動を心がけるよう促していく。(B、C) ⑭全校レクなどを通じた異学年交流の実施。(D)	①授業(根拠をもとに自分の考えを表現する)(C) ②生徒主体の学校行事の充実。(D) ③日々の授業での意見交流(自分の意見をもち伝えること、他者の意見を聞き自分の考えを深めることを活発にさせる)(B、C) ④生徒会を中心に挨拶運動等を実施し大切さを伝える。(A) ⑤異学年交流や地域との交流、校種間の交流を実施する。(D) ⑥書くこと、聞くこと、話すことを大事にした指導・支援。(NIE集会、学びタイム)(B、C) ⑦発表や伝える場の設定。(学級活動、NIE集会、生徒集会、各種行事など)(C) ⑧あいさつの充実。(あいさつ運動)(A)	①家庭内での「おはよう」等の挨拶を親から進んで行い、お礼の気持ちを伝えあう。(A) ②子どもの話に耳を傾け、子どもとの対話を楽しむ機会をつくる。(B、C) ③絵本の読み聞かせ。(B) ④子どもが聞いてほしいことを話そうとする時に、しっかりと聴いてあげるようにする。(B、C) ⑤子どもの話をよく聴く。(B、C) ⑥家庭の中でも挨拶を徹底し、習慣化する。(A) ⑦家庭でも家族に自分の思いを伝えることができるようにし、親は子どもの話をしっかりと聞く。(B、C) ⑧子どもの目を見て話を聴く。(B、C) ⑨学校行事への積極的な参加。(D) ⑩子どもの話を最後まで聞く。(B、C) ⑪食事の時にはテレビ等を消して、お互いに一日の出来事を話し、お互いにしっかり聴く。(B、C) ⑫保護者同士のつながりの強化(PTA活動を通して)(D) ⑬親子の会話(B、C)	①「おはよう」「こんにちは」等、笑顔で挨拶をする。(A) ②子どもと話す機会があるときには、まず子どもの声に耳を傾け話を聞く。(C) ③子どもを見守り、あいさつ等の声掛けをする。(A、B) ④地域の子ども達へのあいさつ、声掛けを積極的に行う。(A) ⑤職場体験学習への協力。(D) ⑥読み聞かせ(B、C)

【育成したい非認知能力】Vふるさとを愛する心 【目指す姿】ふるさとを愛するこども（**A**ふるさと（家族や地域、それぞれの単位のルーツ）についてもっと知りたい、関わりたいという心を持てる、**B**ふるさとに対し愛する心や親しみを持てる、**C**ふるさとに関わる情報発信ができる）

保育所・幼稚園	小 学 校	中 学 校	家 庭	地 域
①散歩（園外保育）に出かけ、地域の人と挨拶を交わしたり、動植物等と触れ合う体験をし、地域の豊かさを知り親しみを持てるようにする。A ②地域のイベントに参加し、地域の人と触れ合う機会を持ち、楽しむ体験をする。B、C ③地域における歴史や文化の伝承（稚児行列や市民祭の中村おどり等）に子どもが主体的に参加することで、地域を知る機会を増やすB。 ④将来的に保育所が地域コミュニティの拠点となることも視野に入れ、保育所行事に地域の人を招くA、B ⑤身近な人や環境に親しみ触れ合う中で、様々なものに興味や関心を持てるようにする。A ⑥生物や自然物の採取に興味を持たせ楽しい経験をすることで地域に目を向ける機会を作る。A、B ⑦ありがとうの日（家族の日）や敬老会等で家族や祖父母に感謝の気持ちを持てるようにしていく。B ⑧田植え稲刈り、野菜や果物の収穫を通じ、地域や園外と交流する。A、B ⑨交流の場に参加して発表を見てもらったり、保育所に来てもらって触れ合うなかで地域の方の温かさに触れる。B、C	①生活科や総合的な学習の時間を中心に、児童の興味や関心を大切にしながら、地域の人と関わり、地域の良さや課題を知ることができる学習内容を設定する。A ②四万十市の取組「ふるさと発見 四万十子ども研究発表会」等に向けて、地域の歴史・文化を深掘りし学習することで、よりふるさとを愛する心情を育てていく。B、C ③地域行事やイベントへの参加を呼びかける。C ④地域を知り、地域から学ぶ学習（よさ・課題等）の推進。A ⑤毎年行っている地域とともに行う「史跡巡り」と「学習発表会」を続ける。C ⑥自分の住む地域の良さや課題について系統的に学ぶ。A ⑦地域での安全な暮らしや防災について学ぶ。A ⑧地元を対象に人・物・自然・文化等の、魅力の掘り起しにつながるフィールドワーク。A	①総合的な学習において、地域の様々な活動を通して自ら課題を見だし、解決するための情報を収集し解決策を模索しそれらを情報発信することを教師が見取り評価をする。A ②教科学習の中でのふるさと等に関する学びB、C ③総合的な学習の時間で、地域の課題を解決し、取り組みに移していくことを、地域でできる事だけではなく、市、県など、広い視野で方策について考えさせる力を養う。A、B、C ④中学生として地域に貢献できる活動を考え実行する。C ⑤郷土の人、モノへの出会い直し。A、B ⑥郷土にかかわる探究を含む総合的な学習の時間の充実。A	①地域で行われるイベントや伝統行事等に親子で参加する。A ②祖父母と触れ合い、大切にする。A、B ③親子でゆっくりお散歩したりすることで、自分の住んでいる地域の事を知る。A ④地域の人にも進んで挨拶をする。C ⑤地域の行事などに親子で積極的に参加し、地域の良さを知る。A、B、C ⑥保護者企画のイベントの実施。（キャンプなど）A、B ⑦親子で地域を散策したり、家庭菜園に取り組むなど、自然に触れる実体験を通して、子どもが学びや発見を深められるよう、家庭で積極的に機会を設ける。A、B	①子ども達を見かけたら、声をかけたり温かく関わってもらいたい。B ②子どもの園外保育に出会ったら、その場所に関する話をしてほしい。A、B ③むかし遊びや音楽等、子どもたちに向けた文化的行事を行う際、保育所から地域の方を講師として招くことがあるので応じてほしい。A、B ④地域の方も学校教育（行事や取組、学習支援など）に参加し、子どもの様子を知り、関わりを増やす。B ⑤自然や伝統、地域の人材など地域の良さを積極的に子どもたちに伝えていく。A ⑥地域の伝統的行事を傳承する。A ⑦総合的な学習の時間や社会科の地域学習の際の協力。A、B ⑧地域の行事等に参加することを保護者を通して投げかける。A、B ⑨地域の行事に児童を巻き込み、文化の傳承を行う。B



四万十市のこどもの育成目標 及び 保幼小中連携カリキュラム

発行 四万十市・四万十市教育委員会

〒787-8501 高知県四万十市中村大橋通4丁目10番地

四万十市 子育て支援課 TEL：0880-34-9007

四万十市教育委員会 学校教育課 TEL：0880-34-5445